

はじめに 「男女共同参画推進センターの取り組み」

伊東 恭子（京都府立医科大学男女共同参画推進センター 副センター長
分子病態病理学 教授）



みなさん、こんばんは。本日はイブニングセミナーにお集まりいただきましてありがとうございます。
ただいまより、当該セミナーを開催いたします。

本日のメインテーマは、医師のキャリアデザインについてです。

私は、男女共同参画推進センターの副センター長並びに司会を担当させていただきます伊東でございます。最初に私から男女共同参画推進センターについて紹介させていただきます。その後、若き女性研究者にそれぞれのキャリアデザインについて話していただきます。

平成22年度に女性研究者育成事業として「しなやか女性医学研究支援みやこモデル」が採択され、本学に男女共同参画推進センターが設立されました。本日は、様々なメインの業務の中で、病児保育の確立と普及・医療職の次世代育成としての就労支援に関して説明させていただきます。

実施体制について、センターの下、4つのワーキンググループが作られています。

1 在宅支援、2 広報・啓発、3 保育室(病児保育室)、4 就労形態検討ワーキンググループ(WG)です。在宅支援WGの活動として、女性支援ネットワーク、文献オンラインシステム、TV会議システム運営などが挙げられ、広報・啓発WGではフォーラム等の企画・開催、ニュースレターの作成、HP運営を行っております。また、アンケート調査を行い、幅広い相談窓口を担っています。そして、本日取り上げる保育室WGの活動として、病児保育室の設立・運営、見守りカメラの設置が挙げられます。そして、病児保育室を軸とした子育て支援とともに昨年12月には、学内保育所が開設されました。また、就労形態検討WGでは、勤務体制、採用枠拡大に向けた制度設計やフューチャー・ステップ研究員の採用が主たる活動内容です。

その中で今回は、フューチャー・ステップ研究員としてキャリアを大きく広げられたお二人の先生にご講演いただきます。

本学での女子学生の増加に伴い、卒業後に研究継続可能な環境の整備が求められています。その一環として病児保育室を設置し、在宅支援とともに、それと並行して研究者のモチベーションの向上維持のために様々な研究支援が行われています。そのために、近隣の大学から研究者を受け入れ、研究者の支援を行っています。

平成21年度のアンケート調査で特に緊急に整備すべき女性医学研究者・医師支援体制で、病児保育施設がトップとして挙げられました。平成23年7月に病児保育施設が開設されました。これが見取り図ですが、病児保育室の設備としては床暖房や感染疾患のために隔離室が設けられています。また今年度には、子どもたちを見守るための見守りカメラも設置予定です。

そして、このような機動性のある医科大学ならではの病児保育モデルが、全国の注目を集めています。近隣連携大学の要望を受け、地域枠新設を広げる方向で展開してきました。子育て両立支援のみならず、次世代育成キャリア教育として医学部学生教育に病児保育実習を取り入れ、学生たちに病児保育の実態を学んでもらっています。それが功を奏し、専攻医の女性比率が39%から46%に増加しています。病児の年度別の利用率といたしましては、本学では幼い0～1歳児の利用が多く、また、登録者としては、後期専攻医や大学院生の割合が多く、子育てをしながら研究している方のお子様を預かっています。昨年度の12月には、一般の学内保育所くすのき保育園が設立されました。定員は18名です。

2012年に本学の卒業者を対象にアンケート調査したところ、卒業後の主たる業務の身分の年齢別分布をみますと、女性は男性よりも大学院進学率が低く、そのため学位取得率が低いことがわかります。これは、子育てと医学研究の時期が重なることが原因と考えられます。

子育て期の女性が医学研究に従事出来る環境の整備は喫緊の課題です。それに伴い、医科大学、近隣大学の連携による女性医学研究者の就労支援の必要性が高まっています。

就労支援としては、2つ挙げられます。ひとつは、研究支援員雇用事業です。これは先ほども申しましたように、近隣の大学から研究支援員を雇用することによって研究者のバックアップをすることです。研究者としては、様々な時間的制約や精神的・物理的困難が軽減される一方で、研究支援員は、研究方法や解析方法を学ぶことができ、自分自身に役立つといったメリットがありお互いにWin-Winの関係が築けます。もうひとつは、フューチャー・ステップ研究員として、短時間の勤務形態で、研究を継続することができる制度です。これらの制度を利用し、大きくキャリアアップを果たされた素晴らしい研究者のお二人にこの後、講演していただきます。

我々は、今後もこの活動を広く展開したいと考えておりますが、そのためには資金が必要となつて参ります。男女共同参画推進センターに、様々なご要望を寄せていただくとともに、寄附への賛同をこの場を借りましてお願い申し上げます。